
君と僕の星座

蜷岸 透

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君と僕の星座

【著者名】

Z-1960M

【作者名】

蜷岸 透

【あらすじ】

星を題材にした、詩のような小説のような作品です

小学校時代に遊んだきりの、河川敷に辿り着く

空を見上げれば、あまたの星が、僕たちを抱くように覆っていた

君は白いブラウスを風で踊らせるように、星を追いかけていたね

僕はといえば、ただただ広大な星空を仰いでいるだけだった

星の中の僕は、ちっぽけだった

とても寒く、そして恐怖さえ覚える程に、星々は光輝いていたのだ

そんな時

君はまるで、全部わかつていたみたに

「大丈夫だよ」

そう言つて、僕の手を握つて夏の大三角を指さし笑いかけてくれた

「私たちもきっと、織姫と彦星みたいに離れる時がくるかもね」

そう言つた割には嬉しそうな彼女。僕の腕に体を寄せ、星と僕を見上げるよ

「だつて、ずっと仲良くしてたら、お父さんが妬むんだもの」

子煩惱な父親を持つてしましましたから。彼女は苦笑しながら呟いた
彼女の母親、僕の両親は、僕たちの交際を認めてくれている。だからこそ協力してくれた

そのおかげで今は一人。自然のプラネタリウム観賞会とあいなつた
のだ

「星はキレイだよね」

彼女は見惚れるよつて、ゆっくりとつぶらな瞳に星を映していた
「昔の人　　外国人だけど、星座を勝手に作つたりしてたらしい
よ」

ロマンチックだよね。彼女はため息をつく

「…………こんなにすごいものを見たら、今までのお父さんとの
揉め事が、全部つまらなく思えてきたかな」

彼女の瞳に、もう星はない。そこには、慈しむような笑顔を浮かべ
る僕がいた

「だつて私たちは、織姫と彦星だもの。やつとお父さんも」

『違つて』

『え……』

『僕たちは、織姫と彦星じゃない』

僕は彼女に告げる

そしてそれは、僕なりの決意の形だった

『僕たちは絶対に離ればなれにはならない。ずっと一緒にいる。君が嫌になるほど、僕は君を愛したい』

彼女は少し俯いた

『だから星座を作ろう。君と僕のように、ずっと寄り添いあってい るような星を探そう』

その俯く顔を、ゆっくりと手ですくいあげる。彼女の瞳の中の星は、まるで波紋で乱れる水面のようになっていた

だからこそ僕は

『それが本当の、僕らの星座だ』

ゆっくりと、彼女に口づけた

彼女の頬を伝う天の川は星を映し、僕はそれを見て思つた

ああ、今日も星は美しい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1960m/>

君と僕の星座

2010年10月11日07時14分発行